

和地ひとみレポート No.13

残暑厳しい8月も引き続き『熱中症』に注意！！

気温30度を超えたと一気に増える熱中症



■ 6月から8月7日までに都下市町村内で 熱中症で搬送された人数は633人

…今夏は猛暑と節電が重なり、大変な夏となっています

■ 東京都の市町村部の熱中症患者数様々なところで熱中症についての注意を呼びかけていますが、やはり、今年は昨年以上に熱中症にかかる方が増えています。

…東京都の市町村部内の熱中症で救急車で搬送された方は6月1日から8月7日現在まで633人(国立環境研究所 熱中症患者速報参照)。その数は気温30度を超すと一気に増えます。この他にも自分で病院に行った方もいますので、その患者数は昨年と同じ時期よりも大

幅に上層。残暑厳しいこれからも、一層の注意が必要です。自分は大丈夫と思わず、予防を心がけてください。

■ 再度、確認。熱中症の処置

…今年は節電のため室内でも熱中症にかかる方がいるとのこと。こまめな水分補給などの予防はもちろんのこと、万が一の時に備えて応急処置を覚えておく必要性も以前より高まっています。

【熱中症の応急処置】～東大和市ホームページより～

1. 風通しの良い日陰や、冷房の効いている場所へ移動する
2. 衣服をゆるめて、体を楽にする
3. 冷たい水で冷やしたタオルや冷たいペットボトルなどを脇の下や足の付け根におき、体を冷やす
4. 自分で飲めるようなら、スポーツドリンクや薄い食塩水(500ミリリットルに1グラムの割合)を飲ませる。ただし、意識障害などがあり、自力で飲みそうもない場合は無理に水分補給をする必要はない。
5. 意識がもうろうとしたり、高熱となった場合などは、早めに医療機関で受診。

～25度	8人	1.3%
25度～30度	66人	10.4%
30度～35度	352人	55.6%
35度～	207人	32.7%
合計	633人	100.0%



通算第42回になる『東やまと産業まつり』

…毎年秋に行われている『東やまと産業まつり』。和地ひとみは農業委員の一員としてこのお祭りに参加します。このお祭りは東大和市の農業と商工業を広く市民に紹介するために昭和46年に産業祭としてはじまったそうです。途中、名称をかえながらも42回続いているお祭りは、昨年、市政40周年を記念して最終的に『産業まつり』となりました。目玉は農産物で作った『宝船』。

農家の方が大根270本、白菜270玉、人参300本等たくさん供出してくださる野菜で作るそうです。もちろん、地元の野菜や果実類の即売コーナーもあります。今回、企画されていた「わら細工コーナー」はわらの放射能汚染を懸念して開催を検討中。地元の大切な農業にも震災の影響が出ています。大切な地元産業を知る機会として、是非11月5日～6日の産業まつりに足をお運びください。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケット「つるかめランド」等を経営)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。／同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、東大和市議会議員1年生として、日々、奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0003 東大和市狭山2-864-3-202